

TS（トータル・サティスファクション）を目指して M4

「自分を満たす」と、自分勝手になる？

校長室担当より

もう耳にすることは少なくなりましたが、「自分を満たしたり、好きなことをさせると、自分勝手になったり、利己主義になる」という考え方がありました。もしかしたら受けてきた教育において、管理しやすい人間を作ろうという狙いから、そう思い込まされてきたのかもしれませんが。そんな時代はすでに終わっています。私は、これは完全に逆だと考えています。

巷によく見かけるのが、自分を満たせなかったり、自分を大事にできなかった結果、いつもどこかに閉塞感や不足感を感じてしまうようになっている人。そしてその感覚を埋めようとして、他人から何かしてもらおうとしたり、自分の不満を改善してもらおうと他人へ何かを要求してしまう人。失敗をすることを嫌い、新しいことに挑戦することを避け、自由に挑戦しようとする人に「やめておけ」と言う人。自分の欠点を認めないようにしたりすることで、心の安定を図ろうとする人。そんな自分を許せないため、他人を許すことも苦手な人。いませんか？

「自分を満たす」とは、ただ自分に甘くするとか、何でも要求するということでもなく、やりたくないことをさけることでもありません。自分のやりたいことやワクワクすること、もっと言えば、自分の心が喜ぶことを知り、できることからこれを行動に移すことだと考えています。

実は、自分が満たされていれば、無理に他人から何かしてもらおうとか、ああしてほしい、こうしてほしいとは思わなくなるものです。損得勘定にしばられ、他人を試すようなこともしなくなります。

例えば、あの人が嫌で仕事に行きたくないからと言ってズル休みをして、心からワクワクする人はいませんよね。どうしても行きたい場所があって、仕事を調整して休暇を取り、計画を実行する。仕事をしていてもワクワクしますよね。そんなに難しいことではなくて、他人や他のことに向けていた自分の意識を、自分に向けるだけです。

ただ、いつもワクワクしろと言われても、人生には思い通りにいかないことが必ず起こります。そんな時には、大人であれば、「今、自分がど

ういう感情であるのか、なぜそう感じるのか、どうしたらいい気分でいられるのか」と自分のことを考える時間を少しでも増やすことで、自然と自分を満たせます。どんな子どもたちに対しても、「どうしたの?」「どうしたいの?」から始まって、「私にできることがあれば教えて。」という心に余裕がある声掛けが、子どもたちを自分と向き合わせ、そして自分を満たすことを覚えさせ、成長させていきます。まずはワクワク感からです。この生き方のお手本を私たち大人から示していきましょう、一緒に。(令和6年5月22日)

4月1日に、先生方へお願いしたこと(確認)

- 1 人間の生き方のモデルを姿で示していただく
- 2 トータル・サティスファクションの実現
- 3 対話とパートナーシップに基づく行動
- 4 全教職員で全校の児童生徒を見守るチームへ